

北海道浮魚ニュース

令和 8 (2026) 年度 6 号

2026 年 6 月 26 日

道総研 函館水産試験場

【URL】 https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html

◎スルメイカ漁場一斉調査結果

6月16日～23日の期間、北海道日本海南部で、函館水産試験場調査船金星丸（151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、調査船の操船設備の不具合により、例年実施している太平洋側の恵山沖での操業は今年度は中止いたしました。

・スルメイカの分布密度は非常に低く、平均 CPUE は 2010 年以降で最も低い値でした。

1. 水温分布 (図1)

2026年と2025年の調査における、各調査点とスルメイカのCPUE、深度50mの水温分布を図1に示しました。2026年の日本海側の漁獲調査点の表面水温は、17.2～19.2℃（昨年調査：17.7～24.0℃）でした。深度50m層の水温は5.2～10.8℃（昨年：7.6～16.1℃）でした。

太平洋側の恵山沖（St.14）の今年度の調査は中止しました。昨年の表面水温は18.0℃、50m深が13.4℃でした。

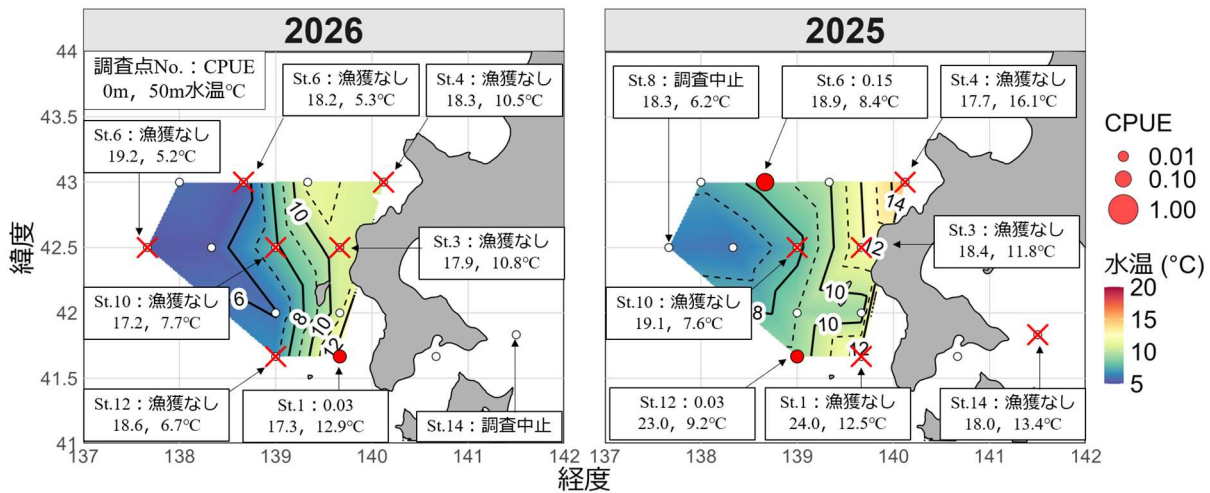


図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50 mの水温分布図（左：2026年、右：2025年）
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。○は海洋観測点

2. 流向流速分布 (図 2)

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における流向流速を図 2 に示します。北東方向に流れる海流を沿岸および沖合で観測しました。道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou.html>

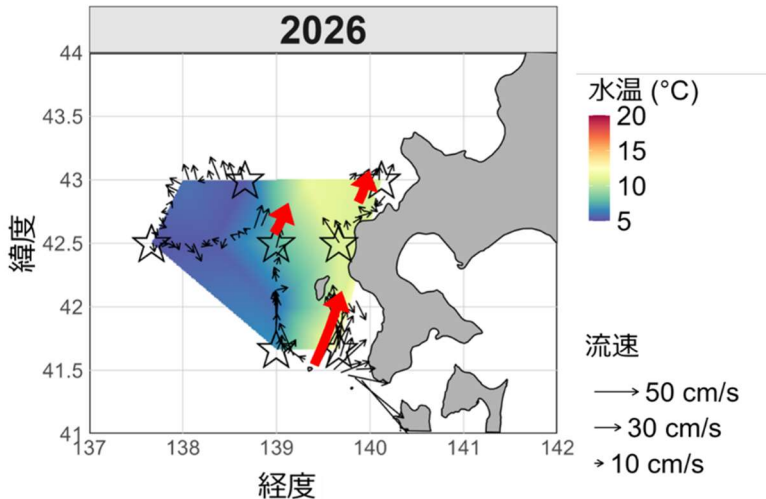


図 2 2026 年の深度 50m の流向流速と水温分布図
赤い矢印は対馬暖流と津軽暖流の模式図を、☆は漁獲調査点を示す

3. スルメイカの分布密度 (図 1、3)

日本海の漁獲調査は計画していた 7 地点のうち、全ての調査点で実施できました。漁獲調査を行った 7 地点における CPUE (2 連式イカ釣り機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) は 0・0.03 (昨年: 0~0.15) でした (図 1)。漁獲があったのは上ノ国沖 (St.1) のみで、CPUE は 0.03 でした。それ以外の 6 地点は漁獲がありませんでした。漁獲調査地点の平均 CPUE の経年変化を図 3 に示しました。2026 年の平均 CPUE は 0.004 で、過去 5 年の平均値 (0.23) を下回り、2010 年以降で最も低い値となりました。

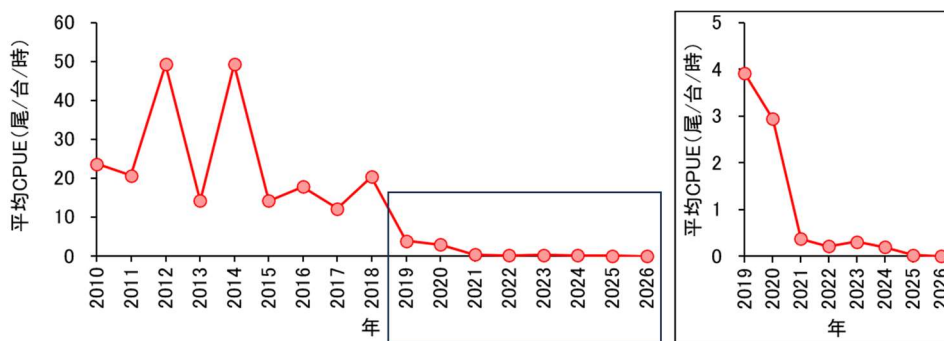


図 3 日本海の漁場一斉調査における平均 CPUE の推移、右は 2019 年以降の拡大図

4. スルメイカの大きさ (図 4)

調査で漁獲されたスルメイカの外套長組成を図 4 に示しました。今回の調査で漁獲されたスルメイカは 1 個体のみで、その外套長 (胴長) は 8 cm (昨年: 6~12 cm) でした。標本数が少ないため、過去の外套長組成との比較は困難です。参考までに昨年および過去 5 年平均における、出現比率が高かった外套長 (モード) は、昨年は 6 cm と 8 cm、過去 5 年平均では 8 cm と 15 cm の個体が多くみられました。

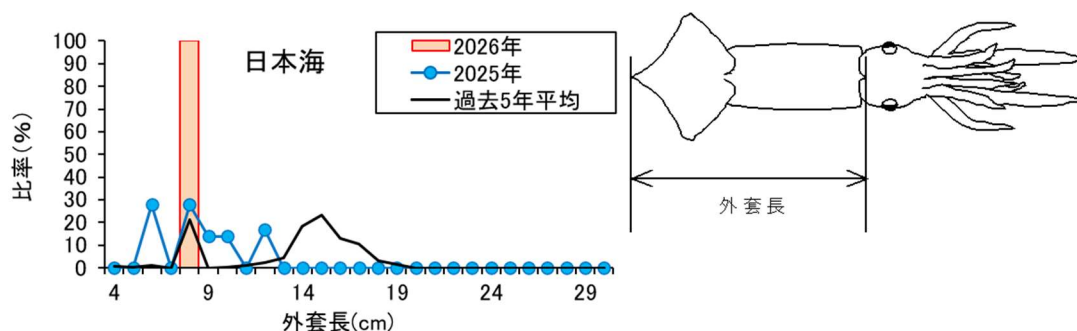


図 4 日本海スルメイカの外套長組成

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

金星丸 海洋観測速報 <https://hro-fish.net/kinsei/>
(函館水産試験場試験調査船金星丸の海洋観測結果がご覧になれます。)

お問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部, TEL: 0138-83-2893
FAX: 0138-83-2849